

平成 26 年 12 月 1 日
湯沢河川国道事務所

～絶滅危惧IA類のゼニタナゴの産卵を確認～ 雄物川で確認されたのは9年ぶり

国土交通省湯沢河川国道事務所が行った河川環境調査において、絶滅危惧種のゼニタナゴ(環境省第4次改定レッドリスト:絶滅危惧 IA 類、秋田県版レッドデータブック:絶滅危惧種 IA 類)*の産卵が確認されました。河川での確認はととも珍しく、雄物川でゼニタナゴの生息が確認されたのは、平成 17 年 10 月(河川水辺の国勢調査:国交省湯沢河川国道事務所が実施)以来、9年ぶりのことです。

ゼニタナゴが確認されたことは、雄物川の良好な河川環境を示すものであり、生物の多様性を維持しているものであり、今後もこの貴重な河川環境を維持・保全していきたいと考えています。

今回のゼニタナゴの産卵の確認について、報道関係機関に対して説明会の開催をお知らせ致します。なお、説明会には杉山秀樹公立学校法人秋田県立大学生物資源科学部客員教授(NPO 法人秋田水生生物保全協会代表理事)も同席致します。

注)絶滅危惧(種)IA 類

絶滅危惧(種)I 類とは「現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの」と定義されており、中でも IA 類については「ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの」とされている種が該当します。

【日 時】 平成26年12月4日(木) 11時～

【場 所】 大曲地域職業訓練センター
住所:秋田県大仙市大曲田町3-1
(会場:2階 製図室)



<発表記者会>

秋田県政記者会、横手記者会、秋田魁新報社大曲支局・角館支局・湯沢支局

問い合わせ先	
国土交通省 東北地方整備局 湯沢河川国道事務所	
住所 湯沢市関口字上寺沢64番2号	
TEL 0183-73-5504	
副所長(河川) 佐藤 徳男 (内線204)	
工務第一課長 畑山 作栄 (内線311)	

現地調査の概要

【現地調査の概要】

- ① 調査方法 (* 杉山秀樹客員教授に指導頂きながら作業を実施)
ゼニタナゴの繁殖確認を期待し、河床や植生を考慮しながら、二枚貝を10個ずつ配置したプランターを雄物川本川に合計4箇所(プランター9個)設置*。
- ② 調査実施日
・プランター設置 : 平成26年9月29日*
・産卵確認調査 : 平成26年10月3日、6日、11日、22日
11月5日の合計5回実施済み。
- ③ 調査結果
11月5日の確認時に、二枚貝1個体にゼニタナゴの産卵を確認。
- ④ 今後の予定
・12月4日に6回目の産卵確認、二枚貝の生存確認を行う。
・12月下旬に7回目の確認調査を行った上、未産卵の二枚貝を雄物川に放流予定。

【ゼニタナゴの特徴】

ゼニタナゴは日本固有の魚で、全長は8cm位です。産卵期は9月～10月頃で、二枚貝の中に産卵します。卵は二枚貝の中で孵化して、仔魚(しぎょ)の状態です。翌年の5～6月まで二枚貝の中で過ごします。その後、稚魚が孵出(ふしゅつ)し水草などが茂ったところに生息し、1年で成熟して成魚となり生息範囲を広げます。

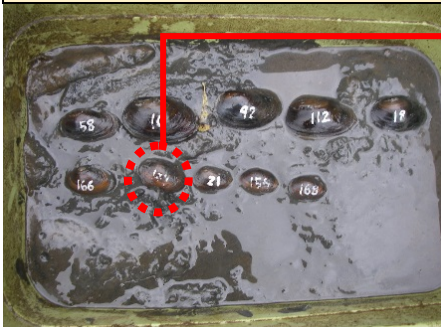
【ゼニタナゴの生息分布の現状】

ゼニタナゴは、かつて、東北地方、関東地方、新潟県など1都12県に分布していましたが、生息場所の消失、オオクチバス等の外来魚の侵入により生息場所が大きく減少しました。現在では、東北地方の4県(秋田県、岩手県、宮城県、福島県)のごく一部でしか確認することができません。このうち、**本来の生息環境である大河川で生息が確認されているのは、雄物川だけと考えられます。**

プランターの設置状況



プランターに配置した二枚貝



ゼニタナゴの成魚



出典:「塩曳湯のゼニタナゴを守るために」
(2013年 秋田淡水魚研究会)

ゼニタナゴが産卵した二枚貝(タガイ)



調査状況(産卵の有無の確認)



ゼニタナゴの卵



二枚貝に産み付けられたゼニタナゴの卵